

「太田家十村役の歴史や 豊富な遺跡がある町」

らいまる
File72 来丸町

来丸町の町域は広く、手取川から1キロの小さな集落の南側には、物見山と市役所本庁舎があります。さらに南の丘陵山地へ細長く続き、加賀産業道路は町の中央を東西に走ります。現在、53世帯184人が暮らしています。

来丸といえば忘れないのは、十村役太田家の存在です。享和元年（1801年）ごろに来丸村へ移住した太田家は、十村役として、旧山上村の和佐谷を除く各集落38カ村の農村を管理監督していました。今も太田家八代文三郎の墓は市の史跡として遺されています。

また、原始・古代の遺跡が数多く分布していることも特徴で、特に来丸丘陵上に存在する数々の古墳群は、この辺一帯での先人の活躍が伺えます。

「古くからの伝統や歴史、神社や獅子舞があることが自慢です」と話すのは町会長の東出さん。防災活動では、町民同士の交流する機会として捉え、避難訓練の後に落語会を開催するなど、他の行事と組み合わせることもあります。防災センター完成時には、高齢者を対象に、食事付きのセンター見学ツアーを催行。秋常山古墳も見学し、大変好評でした。



来丸町会長
ひがしではるお
東出 春夫さん



毎年6月中旬、ブルーミングロード周辺ではホタルを観測できます。近くにお立ち寄りの際は、ぜひ鑑賞してみてくださいと話す東出さん。

「と東出さんは話します。今年4月、健康ロードの一部が競歩の練習用コースとして「ブルーミングロード」と名づけられ、除幕式には鈴木雄介選手を筆頭に、たくさんの方が参加しました。今後は競技者の練習や市民の健康づくりに利用される予定です。来丸町にまた、新しいにぎわいが生まれそうです。」



100段を超える石段と市内最大の大杉がある気多神社は、町民のご奉賛により昨年一部改修され、手洗い場も新設されました。

◆ 令和を祝い 戸籍届出特設窓口を開設しました

令和を迎えた初日の5月1日、お祝いムードを盛り上げるため、市役所本庁舎に特設窓口を開設しました。

婚姻・出生の届出をされた方に、お祝いボードを置いた特設スペースで写真撮影するサービスを実施したほか、婚姻届を提出した方には、フォトフレームと商品券、出生届を提出した方には、柚子の苗木またはカバの絵本が贈られました。当日は、婚姻届は能美市誕生以来最多の24件、出生届は3件の提出がありました。



井出市長と「ひぼ能ん・ゆず美ん」もお祝いしました。

◆ 天皇陛下御即位記念

市役所本庁舎の市民ホールでは、5月1日から「～平成から令和へ～」と題して企画展示を行いました。

また、市役所本庁舎、寺井体育館、根上総合文化会館に懸垂幕を掲げ、祝意を表したほか、市役所の各窓口には「祝・令和、おめでとう令和」とデザインされたパネルを設置し、新時代の幕開けをお祝いしました。



市民ホールで行われた企画展の様子



寺井体育館に掲揚した懸垂幕

広報 のみ

Nomi City News Letter

CONTENTS / 目次

- 2 令和を祝い
戸籍届出特設窓口を開設しました
天皇陛下御即位記念
- 3 わがまち自慢
- 6 九谷茶碗まつり
のみバスの新デザインが運行開始
- 8 市民と市政の歩み
・観光大使・特使に市にゆかりの9人
・辰口中央児童館の完成をお祝い
・西田園夫さんに旭日単光章
・ブルーミングロード完成をお祝い
- 12 健診・がん検診のご案内
- 12 市役所からのお知らせ
・風しんの第5期定期予防接種開始
・ひとり親福祉手当・医療費助成の
現況届提出をお忘れなく
・放課後児童クラブ夏休み期間中の
入会申し込みを受け付けます
・児童手当現況届の提出
・能美市プレミアム付商品券取扱店募集
・ヘルプマークの配布を開始します
・「根上り七夕まつり」「辰口まつり」の
開催日程が決定 など
- 18 情報ひろば
- 21 主要行事・イベント実施予定
- 22 みんなでつくる博物館プロジェクト
今月の手話
- 23 まちのできごと
- 25 いしかわ動物園に行こう！
みんなの図書館
- 26 子育てに関する情報
- 27 相談・国際交流・ご寄附
- 28 九谷焼の世界に触れる



COVER 今月の表紙
新緑の七ツ滝

「豊かな自然に囲まれた 橋の架かる町」

わ さ だ に
File74 和佐谷町

能美市の最も東に位置し、手取川を挟んで旧鶴来町に相對すると、ここに立地する和佐谷町。現在、34世帯83人が暮らしています。町には国道の鶴来バイパスが通っており、街中へのアクセスは良好です。和佐谷橋の架かる前の昭和8年までは、船で川を渡っており、和佐谷の渡船場は人馬の交通に重



和佐谷橋の両端には、かつての吊り橋時代を彷彿とさせる頑強な塔が残っています。橋を渡ると心地よい風が吹き、美しい手取川が見渡せます。

要な役割を果たしていました。昭和8年に、念願のつり橋が完成し、昭和33年には鉄製に改築。町民は、橋が揺れないことを喜びました。そして昨年より、和佐谷橋は再び改修され、これからは子ども達が安心して通学できる橋へと生まれ変わろうとしています。新しい橋は、半世紀持つと言われており、完成は今秋を予定しています。

また、きれいな川にしか戻ってこないというサクラマスが生息し、山林の保有面積は市内1位という、豊かな自然に囲まれた同町。「夜空がとてきれいなんです」と話すのは、町会長の安田さん。

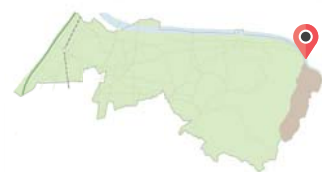
「和佐谷町は、校区が白山市なんです。だから、能美市との繋がりが希薄にならないようにしています」と話します。

3月には、市長を呼んで懇話会を開催。毎年開催しているタウンミーティングも、今年で3回目を迎えました。どちらも、町民が能美市民として実感する大切な機会



和佐谷町会長
やす た いわお
安田 巖さん

和佐谷町 - Wasadani -



子どもから高齢者まで、安心・安全に暮らせるように、橋の改修を含め、これからは獣害対策や災害対策の工事を行っていく予定ですと話す安田さん。

となりました。

昨年からは、バーベキュー大会も新たに開始。町民同士の家族ぐるみの交流を増やすため、町外にいる家族も参加可能になりました。

「今まで町会活動になかなか参加できなかった方も、気軽に顔を出してもらえれば」と、安田さんは町民に呼びかけるように話しました。

「和やかなつながりが感じられる 市内で一番新しい町」

わ こう だ い
File73 和光台

和光台は平成10年に宅地の分譲が開始され、翌年4月に自治会が発足した能美市で一番新しい町です。いしかわ動物園の南側に隣接し、豊かな自然に囲まれたこの町には、現在354世帯1191人が暮らしています。

和光台最大の特徴は、住民の平均年齢の若さです。「住民の多く



緑に囲まれ新しい家が立ち並ぶ和光台。写真左手前の茶色の建物は、町のコミュニティ施設虚空蔵会館。

が子育て世代で、年が近いこともあり、すぐに顔なじみになります」と話すのは町会長の富田さん。「和光台の子どもが通う和気小学校は、学年の垣根を越え児童の仲がよいんです。だから子どもを通じて親同士のつながりも自然と広がっていくんです」と住民の交流について教えてくれました。

町の中心にあるコミュニティ施設「虚空蔵会館」は交流の拠点となっており、毎年8月に和光台まつりが開かれています。壮年団や子供会が中心となり模擬店が企画され、住民は飲食しながら歓談するなど思い思いに楽しめます。町独自の子育てサークル「かるがも」の活動も虚空蔵会館で行われています。妊娠中の方や未就園児を持つ保護者たちが参加しており、子育ての悩みごとを相談したり情報を共有したりする交流の場となっています。

町内を見て回ると、建設中の家



和光台町会長
とみ た まさる
富田 将さん

和光台 - Wakodai -



住民同士の仲が良く、外で過ごすしやすい季節には、グループ単位で集まってバーベキューをすることがよくある楽しい町ですと話す富田さん。

ていくことが想像できました。前回、虚空蔵会館で開かれたタウンミーティングでは、和光台の若い住民から人口増加を踏まえた公共交通機関や子育て・教育環境についての提案が積極的に出ていました。自分たちと町の未来を考える姿を見て、和光台は暮らしやすいコミュニティとしてさらに発展していくのだと思いました。